

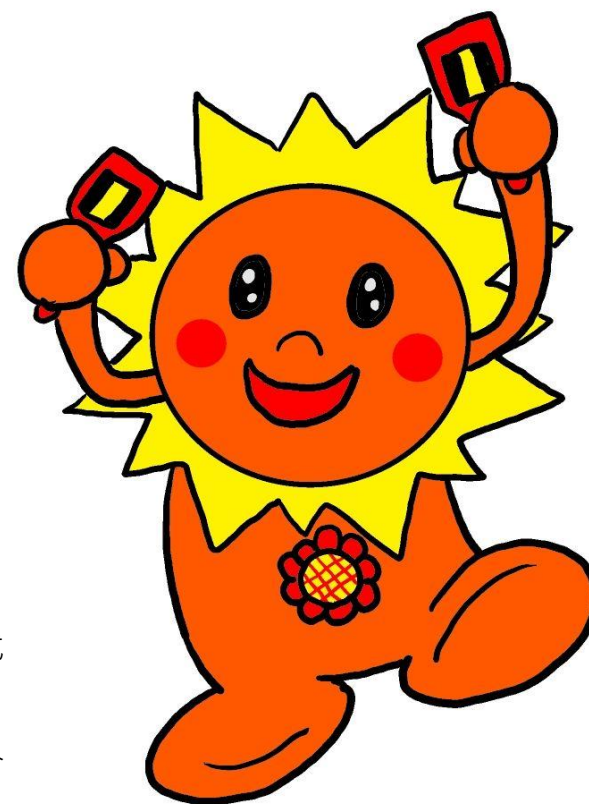
トイレから始まった 高知モデル

特別養護老人ホーム
森の里高知



最初は・・・単純

いい施設を作りたい！！



ふるさと会公式
キャラクター

ふるたへりの介

施設の方針 を定める

急な職員減少、異動でも質の高い
介護を！！

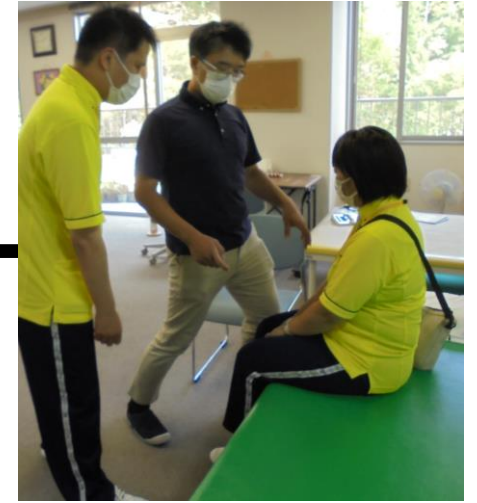
ケアの水準を上げた上で誰でもで
きるものに！！

力の弱い職員や腰痛持ちの職員で
も無理なく介護出来る職場作り！

方針を実現させるために

ノーリフティングケアを武器にしよう！！

- ・ 関係職種と勉強会立ち上げ
- ・ 必要な用具や技術の選定



福祉用具の整備

補助金等により少数の介護リフト、スタンディングリフトを導入しそこから得た経験により台数、種類を拡充

介護技術、ノーリフティングケアの定義等
研修実施

初期のノーリフティングケアに対する 部署の理解

ノーリフティングケアを
導入して職員の腰痛を防
ごう！



時間や手間がかかって業
務の邪魔になる。空を飛
ばした方が早い

一人でも適切な介助がで
きる！！効率のいい業務
をしよう！！



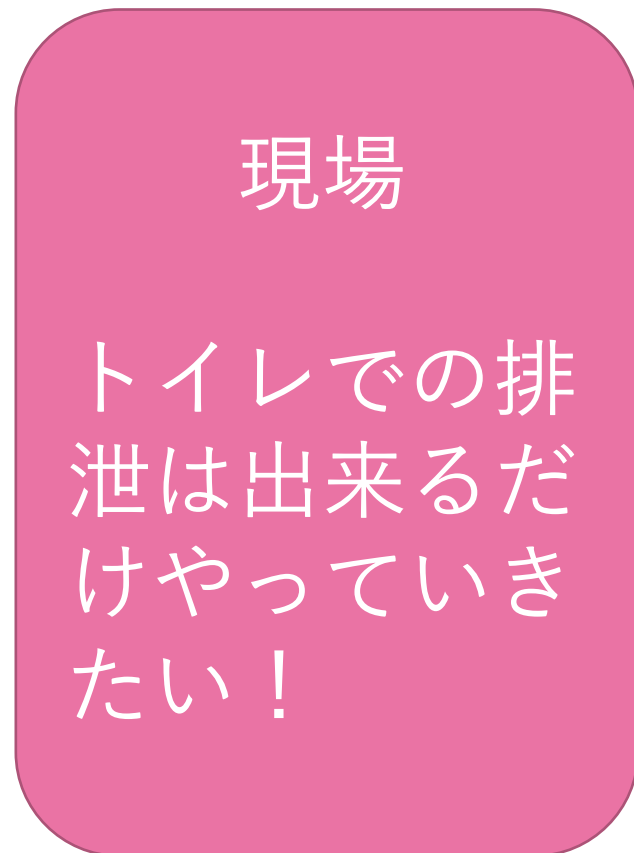
福祉用具でも事故はおこ
る。二人で対応したいの
で人員は減らせない

利用者さんの安心
安楽な生活の為
に！！

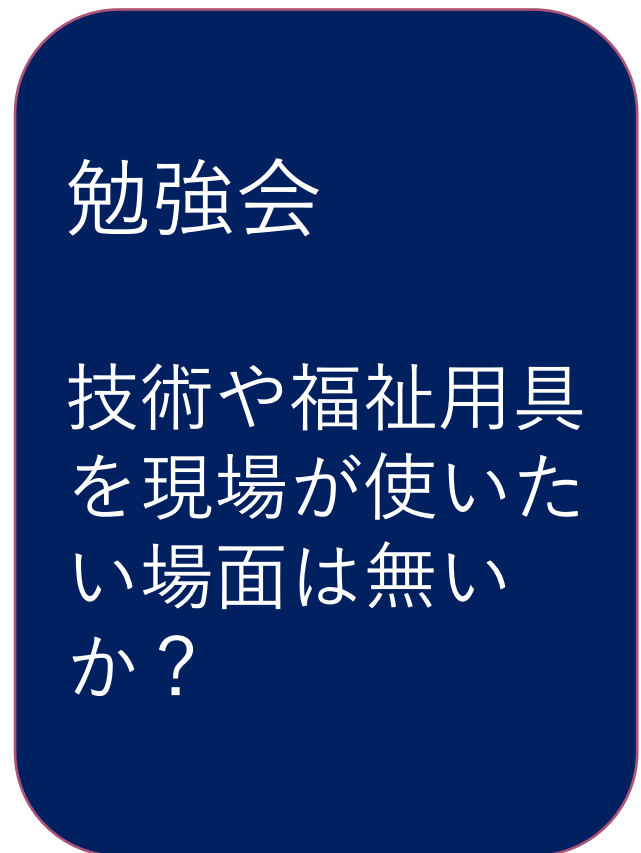


不満や痛みを訴える利用者も少な
いから実感が湧かない。今までの
介助でも楽にしているように見える

最初の転機は現場の熱意



使ってみようかな



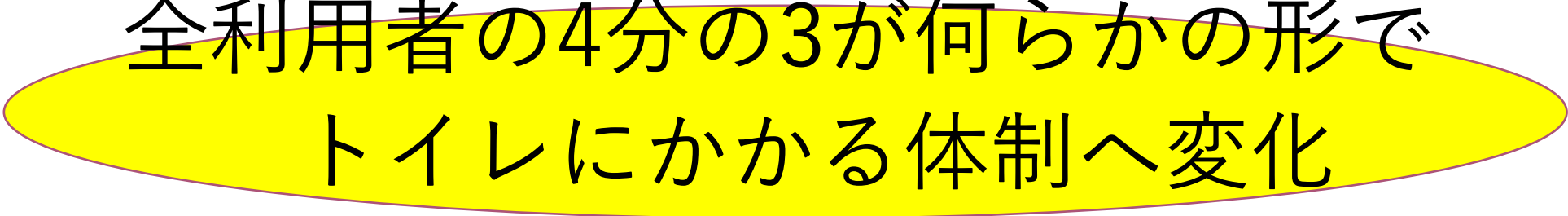
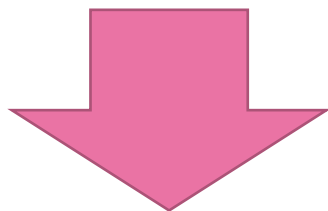
排泄で使ってみると色々便利ですよ

排泄の質改善

パット交換ではうまく排泄できない利用者様でも特にスタンディングリフトでの排泄では良好な結果が出る



成功体験！！



全利用者の4分の3が何らかの形で
トイレにかかる体制へ変化

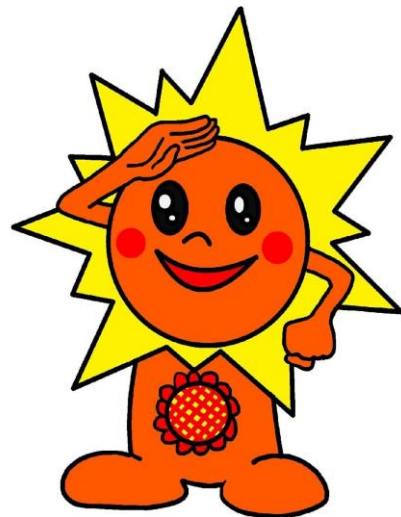
次に目指した高知モデル

労働安全

介護の質向上

感染予防

業務改善





変化の契機①

体格の大きい利用者の入所増で飛ばせない、力の無い職員では介助困難な事例が増加

変化の契機②

利用者の身体機能の低下による、介助の難度変化、事故の発生



変化の契機

③

退職者の増加による人員の不足

- ・従来の人員でのケアができない
- ・レクの減少等サービスの低下



コロナの襲来

- 密着しての介助の感染リスク確認
- 職員のコロナ罹患による離脱で1人介助の増加
- 身体機能低下、褥瘡予防への対応



部署の 危機感

- 使いたいところに使うだけでなく、業務全般にノーリフティングケアを使わないと部署が回せない！！
- コロナで運動機能低下、褥瘡ができた利用者様が激増した、ああいった経験はしたくない！！
- 身体機能が低下した利用者様を今までの介助方法でケガさせてしまった、安全なやり方はないか？

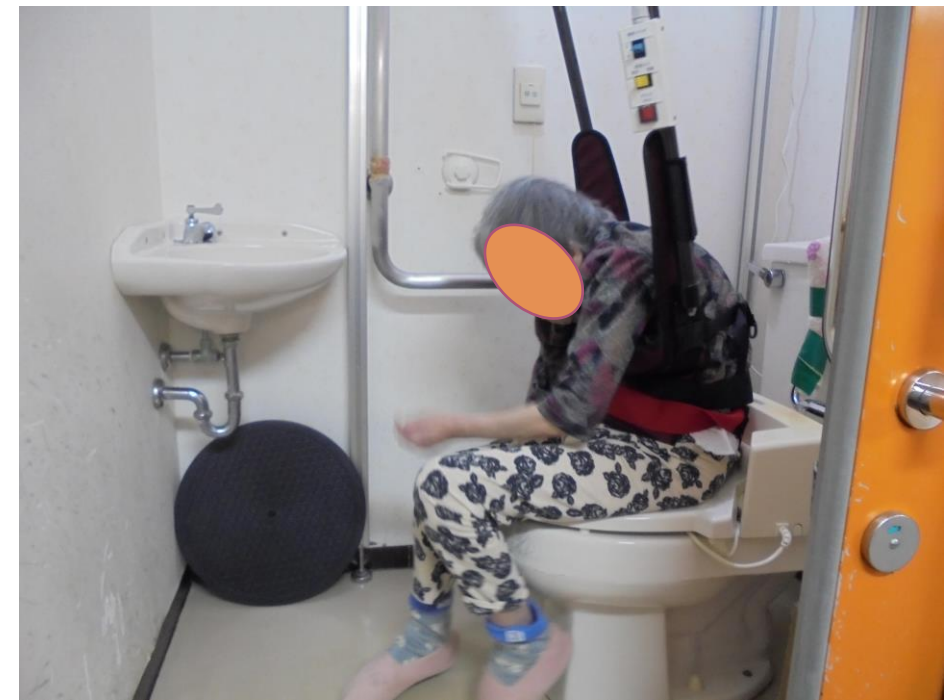
導入してみても 付くメリット

- 楽なのでないと困る
- 力の無い職員でも1人で対応できる
- 洗体がしっかりできる、利用者の皮膚状態の観察がしやすい
- 排泄の質が上がった



現場からのフィードバック

立位、座位の困難な利用者に
「座らせたいので、やってみたい」との提案



急速な定着

- 部署からの自発的なスタンディングリフトの追加、購入要請
- 姿勢管理、特にポジショニング等の研修希望が増加



施設から業者への ニーズ発信

不穏な利用者への立位介助に関して従来の福祉用具では受傷や緊張亢進のリスクがあり、トイレでの排泄介助の課題として浮上

がまかつの協力の下、特養で使用しデータのフィードバックを通じて施設に最適な福祉用具にしていく試みを計画



業者との問題解決の検討

- 特養用のスリングの開発

支持面積を広げ、転落防止の為にリング状に包んで支えるマジックテープを追加したスリングシートの開発

- ワイヤー巻き込み故障の改善、耐久面での補強

特養では使用頻度も高く、協力動作も乏しい利用者が対象になる事例が多いためワイヤーの巻き込み、シャフト抜け防止等の改良の実施

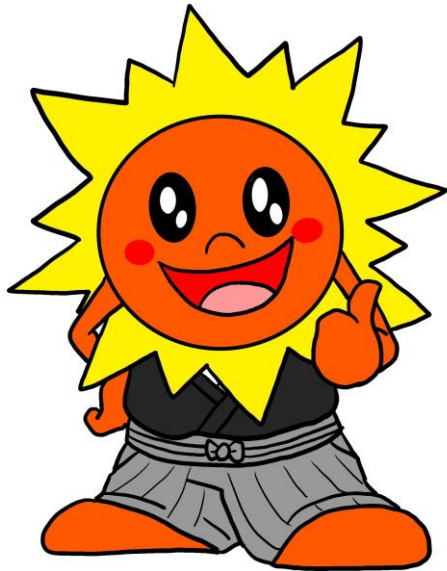
Aタイプ（従来型）



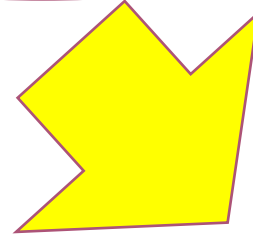
Bタイプ（特養用試作型）



トイレから 始まった 当施設の 高知モデル



何としてもトイレでの排泄
は維持したい！！



福祉用具や技術を使
った職員の身体的
負担の少ない介助

少ない人数でも福祉
用具等を用いて効率
のいい業務

スタンディングリフ
トの身体機能に即し
た使用等で無理のな
い立位、自然なトイレでの排泄

感染症発生時、使い
捨てのシートや福祉
用具の活用で出来る
だけ接触せず介助す
る体制作り

これからの施設の 在り方

- ・ 職員が使いたい部分、必要に駆られての変化から意図的な深化へ
技術、福祉用具の更なる充実による生活の中での身体機能に合わせた細かな介助
コロナ禍による身体機能低下、褥瘡リスクを起こさない施設づくり等
- ・ 出来ていることをそのまま出来る特養を目指す

